

デトロイト：次なるチャンス到来の都市 ～ミシガン州知事と市緊急事態管理官が語るデトロイト再生のシナリオ～

クレアニューヨーク事務所

2014 年 3 月 24 日、ニューヨークで最も権威のある公共政策系シンクタンクであるマンハッタン政策研究所 (Manhattan Institute for Policy Research) において、「デトロイト：次なるチャンス到来の都市」 (Detroit: The Next American City of Opportunity) と題して、リック・スナイダー (Rick Snyder) ミシガン州知事とケビン・オア (Kevyn Orr) デトロイト市緊急事態管理官を招いた講演会が開催されました。

デトロイト市は約 180 億ドル (約 1 兆 8 千億円) もの負債を抱え、2013 年 7 月 18 日に、米国史上最大規模となる破産申請を行いました。同市の破産手続きは現在も進行中であり、その手続きの最中に 2 人のキーパーソンが何を語るかについては、大きな注目を集めました。

講演会のモデレーターは、ニューヨーク市立大学シティカレッジ (City College of New York) のダニエル・ディサルボ (Daniel Disalvo) 准教授が務め、前半はモデレーターからの質問に、後半は聴衆からの質問に、州知事とオア緊急事態管理官が交互に回答する形で進行了ました。

今回、同研究所の了承を得て、以下に講演会の模様を紹介します。なお、紹介に当たっては、日本語としての分かりやすさを優先し、逐語訳ではなく意識としておりますが、実際の講演会の映像は、同研究所のウェブサイトからご覧いただくことができます。

[\(http://www.manhattan-institute.org/multimedia/events/032414CSLL/\)](http://www.manhattan-institute.org/multimedia/events/032414CSLL/)

モデレーター (Q1)

なぜデトロイト市は、このような財政状況に陥ってしまったのか。

スナイダー州知事

今日、私は、過去の話に時間を費やしたくはない。政治の世界では、問題が発生した場合に、非難することに時間を浪費しがちであるが、そのような非難・中傷は、問題の解決を遅らせるだけである。

私は、昨年、貿易使節団を引き連れて中国を訪問したが、その際に、デトロイトの可能性について、次の 2 点を説明した。1 点目は、デトロイトにとって、破産申請は新たな問

題ではなく、過去 60 年間にわたって積み重ねられてきた問題に対する解決策であること。
2点目は、デトロイトは、既に復活しつつあることである。

もちろん、デトロイトには、まだまだ課題が山積しているが、例えば、デトロイト中心部（ミッドタウンとダウントウン）には、過去数年間で、60 億ドル（約 6,000 億円）もの民間からの投資が行われており、これらの投資が、約 1 万人もの新たな雇用を生み出している。そして、若い専門家たちは、デトロイト中心部に住みたがっているが、住居が不足しているほどである。

中心部以外の周辺地域の底上げや住民サービスの問題が残されているが、今、オア緊急事態管理官がそれらの問題に取り組んでいるところである。

オア緊急事態管理官

デトロイト中心部は、既にルネッサンスといってもいいほどの復興を遂げつつある。デトロイト中心部では、不動産の 97%がリースされており、7つの大型プロジェクトが進行中である。そして、今後 2、3年の間に、4つの大型インフラ事業が計画されている。1つ目は、カナダ・ウィンザー（Windsor）からの新しい橋の建設であり、カナダ政府は 50 億ドルもの投資をして、カナダからデトロイトへの貿易を促進している。2つ目は、その橋がアメリカ側に入ってくる場所に、ウェルカム・センターを建設することである。3つ目は、ダウントウンでのライト・レールのプロジェクト（M-1 Light Rail Project）であり、4つ目は、ミッドタウンのアリーナ建設である。

私は、これまでのキャリアの中で、1983年にマイアミに移り、1991年にワシントンDCに移ったが、当時のマイアミもワシントンDCもひどい状態であったが、今やどちらの都市もすっかり繁栄している。私は、デトロイトも同じようになると感じている。

知事の話で極めて重要な点は、我々は、単にデトロイト市のバランスシートをきれいにしてしようとしているわけではなく、市が適切な住民サービスを提供できるように、必要な財源を確保しようとしていることである。例えば、1年前に市のゴミ処理を民間にアウトソーシングしたいと言え、みんな冗談だと思っただろうが、今やそれが実現したことを私は誇りに思っている。このように市の行政サービスを改善させることは非常に重要なことである。

モデレーター（Q2）

二人とも市の行政サービスや市への投資の重要性を指摘したが、デトロイト復活のために、マイク・ダガン（Mike Duggan）市長が取り組むべきことは何か。

スナイダー州知事

市長とオア緊急事態管理官は、良きパートナーとして一緒にデトロイト市の復活のために取り組んでいる。「全員甲板に集合」(All hands on deck.)である。この点は極めて重要な点であり、私は感謝している。行政の世界では、連邦、州、地方政府が互いに競争し合うことがよくあるが、これは時間と資源の浪費だからである。

今、州知事である私がここにいる理由は、我々はデトロイト市民という共通の顧客を抱えているからである。そこで、我々は市民に行政サービスを提供するため、意見の不一致にではなく、一緒にできることに集中して取り組んでいる。これが我々の基本的な姿勢であり、これが限られた資源の効率的な利用につながっている。

荒廃施設の除去を例にとると、これが適切になされると、近隣住民の意識が大きく変わる。彼らは、近隣が安全だと感じ、新たな投資を行う意欲が湧く。そして、自分たちの町に誇りを持つようになる。いま重要なことは、関係者が連携して荒廃施設の除去に取り組み、成功体験を育んでいくことである。

オア緊急事態管理官

荒廃施設について言えば、少し前までは、マンハッタンの 126 丁目 (ハーレム) のあたりに行けば、いまのデトロイトと同じような建物があった。デトロイトでは、32 万の建物のうち 7 万 8 千もの建物が空き家・空きビルである。市民の 60% は公共交通機関で通勤・通学をしている。水道を供給するためのインフラも必要である。デトロイトの破産手続きは、これらの重要なインフラを建て直すためのものである。

市長と市議会は、互いに対立し合うことなく、私も含めた 3 者で連携して、これらの課題に取り組んでいる。例えば、私が取り組んできた施設管理やゴミ処理の民営化について言えば、彼らは、これらの民営化の契約を承認してくれた。これはデトロイト市の長い歴史の中で初めての画期的なことである。我々は、市民の利益のために、バスの定時運行や空き家の撤去などにも、連携して取り組んでいる。

荒廃施設の除去については、我々のタスクフォースが、情報技術を駆使して市内 32 万戸のすべての建物のリストを作成した。そのリストには、建物の外観、修理の状況、今後の予定などが掲載されており、今後数週間以内に公表を予定している。これはアメリカではじめてのことである。さらにすごいことは、このリストと固定資産税の情報を突合できることである。この取り組みは、市が市民にとって最も重要なニーズに応えようとしていることを示している。

昨年 11 月、私は、女の子が夕方 5 時に、一人でバス停のベンチに座っているところを見た。冬なので、あたりはどんどん暗くなっていったが、バスが定時に来なかったため、

彼女は5時半まで待たされたのである。我々は、子供たちに、こんな経験を二度とさせてはならない。

よって、私の責任は、ただ単に市のバランスシートをきれいにするのではない。市長と市議会も、彼女が安心して通学できるように、バスの定時運行に一生懸命取り組んでいる。そして、市民に十分な行政サービスを提供し、市への投資を惹きつけ、持続可能な未来を構築するために努力している。

モデレーター (Q3)

二人とも荒廃施設の除去や住居の問題について言及したが、デトロイトの大きな問題は人口減少であると思う。この人口減少への対処、課税ベースの拡大、そして荒廃施設の除去という相互に関連する問題に、どのように取り組んでいく考えか。

スナイダー州知事

問題は複雑に見えるが、単純化して言えば、我々は、デトロイトを成長させるために、すべての努力を傾注している。デトロイトの成長が、すべての問題を解決するからである。

そのための一つの方策として、私は、移民の活用を提案している。我が国の移民制度は、既に崩壊している。私は、これまで積極的に移民制度改革を訴えてきた。我が国は、STEM (Science, Technology, Engineering and Mathematics) 分野で、多くの外国人学生に対して、修士号や博士号の取得を奨励しているが、彼らが学位を取ったら、すぐに国外に追い出してしまふ。彼らは、この国に残って働きたいと言っているにもかかわらず。これは、何とも馬鹿げたことである。

そこで、私は、デトロイトへの救済策としてではなく、今後5年間で、これらのSTEM学位取得者5万人に対して、デトロイト市内に5年間、住んで、働くことを条件として、就労ビザを発行することを提案している。ミシガン州内の公立大学だけでも、毎年 1,800 人のSTEM分野の修士・博士が生まれている。しかも彼らは、ハイテク関連産業において、STEM 卒業生 1 人当たり 2.5 人の雇用を創出してくれる。よって、5万人のビザが、5万人プラス 12.5 万人の雇用を創出するのである。これが認められれば、デトロイトは急速に成長するであろう。

オア緊急事態管理官

重要なことは、デトロイトを住みたくなる魅力的な街にすることである。さきほど、ゴミ処理の民間委託の話をしたが、この契約では、通常ゴミ収集に加え、粗大ゴミを収集する契約が含まれている。

先日、デトロイト北部に行く機会があったが、そこには粗大ゴミが山積みになっていた。しかし、1週間後に行くと、ゴミの山はきれいに片付けられており、道路の反対側では、真冬の厳寒の中で、シャッターにペンキを塗っている紳士がいた。そこで、私は、この紳士に話かけてみた。彼は、私が誰だか分かると、私にハグをして、ゴミの山が撤去されたことに感謝してくれた。ゴミの山を撤去するというちょっとしたことが、真冬にシャッターのペンキを塗るという新たな投資につながり、近隣住民が自分たちの街に誇りを持つことにつながるのである。

デトロイトには、ボストン、ニューヨーク、シカゴに負けないような歴史的な街並みがある。もしあなたが、1920年代、30年代、40年代に、ハイテク産業で働こうと思えば、きっとデトロイトに来たであろう。デトロイトは、工業化時代の「シリコンバレー」だったのである。デトロイトの一部の地域では、その当時と同じスピリットとチャンスが見られる。そして、それが徐々に成長していくことを期待している。

たしかに、デトロイトには多くの問題がある。市の徴税率は、65%に過ぎない。しかし、我々が住民に対して、支払った税金以上の便益を享受できることを示すことができれば、徴税率は上がり、住民は新たな投資を始めるであろう。我々が、ゴミを撤去して街をきれいにし、何かあれば警察がすぐに駆けつけるような体制を整えれば、住民は、自分たちの街に誇りを持つようになる。これが、我々がいま取り組んでいることである。

モデレーター (Q4)

多くの方が、市の長期的な財政状況を心配していると思うが、年金や医療保険などのレガシーコストに対してどう取り組み、地方債市場にどうアピールしていく考えか。

スナイダー州知事

破産手続きにおいては、投資家であれ、地方債保有者であれ、退職公務員であれ、みな何らかの犠牲を払う必要がある。問題は、誰がより多くの犠牲を払うかではなく、いかにして建設的かつ人道的で、その結果、デトロイトの成長につながるような前向きな解決方法を見出すかである。

私が、市の破産申請を承認したときに考えたことは、もし私が破産申請を承認しなかったら、その翌日、その翌月にどうなるであろうか、ということである。デトロイトが抱えるレガシーコストは、明らかに財政的に持続可能な状態ではない。これまでの債権者たちの議論では、原点に立ち返った議論が不足しているように思われるが、連邦破産法第9章の真の目的は、デトロイトが将来にわたり、安定的に行政サービスを提供できるようにすることである。このために、オア緊急事態管理官が素晴らしい働きをしてくれている。

オア緊急事態管理官

市の 180 億ドル（約 1 兆 8 千億円）の債務の内訳について考えてみる。まず、そのうち 60 億ドルは、上下水道や駐車場などの企業会計の債務であり、すべて返済される予定であるため、心配しなくてよい。すると、120 億ドルが残る。

この 120 億ドルのうち、最大のものが 57 億ドルの退職公務員の医療保険債務である。次に大きなものが、35 億ドルの年金債務である。その次が、20 億ドルの一般財源保証債である。

市は、一般会計の 40% を、退職公務員の医療保険債務や一般財源保証債の償還費用といたってレガシーコストの支払いに充てている。4 年後には、このレガシーコストが一般会計の 62% を占めるようになり、その後、3 分の 2 を超えるようになる。これは、明らかに持続可能性のない状況であり、何とかしなければならない。

一方で、デトロイトの破産手続きで、ユニークで人道的な素晴らしい取組みは、年金救済の動きである。市は、年金基金に対し、2005 年と 2006 年に 14.4 億ドルの支払いを行った。そして、今後、8.15 億ドルの資金を得る見込みである。慈善団体が 3.65 億ドル、州政府が 3.5 億ドル、デトロイト美術館が 1 億ドルを拠出する計画があるからである。これが実現すれば、年金基金は、過去 8 年間で 25.5 億ドルもの資金を得ることになる。

このような年金受給者を救済するための協調的な取組みは、これまでになかった初めてのものである。何よりも重要なことは、この取組みが、年金基金の積立不足を解消するとともに、市が安定的な行政サービスを提供することを可能とし、かつ、債権者からの合意を取り付ける助けとなることである。

モデレーター（Q5）

これが私からの最後の質問となるが、デトロイトの破産申請の経験から、どのような教訓を得たか。

スナイダー州知事

一番の教訓は、危機が発生するまで待つてはならないということである。特に政治的な問題については、危機が発生するまで手をこまねているということがよくあるが、それは問題をより深刻にするだけである。

二番目の教訓は、世論の支持を集めることである。人々は、変化を嫌う。しかし、いま小さな犠牲を払えば、将来の大きな犠牲を避けることができることを住民に説明し、説得

することが政治家の仕事である。よって、問題が深刻化する前に、いま行動を起こさなければならない。それが住民に利益をもたらすからである。

オア緊急事態管理官

ただの願望は、戦略とは言えない。取組みの遅れは、市の行政サービスにとって致命的となる。なぜなら、事態は急速に悪化するからである。一方で、事態を回復させるためには、少しでも早く取り組むことが肝要である。よって、できるだけ早く問題の解決に着手すれば、それだけダメージは少なくなり、メリットが大きくなる。

聴衆 (Q6)

デトロイト市の公立学校システムの改善の必要性については、どう考えているのか。

オア緊急事態管理官

後で知事が触れると思うが、デトロイト市の公立学校は、緊急事態にあり、ミシガン州教育達成機構 (EAA: Educational Achievement Authority¹) の管理下にある (訳者注: EAA の理事会メンバー 5 人のうち 3 人は州知事、1 人はデトロイト学校区、残る 1 人は東ミシガン大学が任命し、理事の互選により理事長が選出される²)。

私の母は、教師からスタートして、最終的にはフロリダの全米第 5 位の大きな学校区の教育長を務め、46 年もの間、学校教育に携わってきた。よって、学校教育は自分のルーツでもあり、その重要性は十分認識している。確かに、学校教育は、デトロイト再生の鍵である。

デトロイト市には、いくつかの素晴らしいチャータースクール (charter school) があるが、公立学校については改革の最中である。デトロイト中心部には、若い専門家たち (young professionals) が移り住んできているが、彼が 20 代のうちは良くて、30 代になって子供ができれば、良い学校がなければ、他の地域に引っ越してしまう。よって、我々は、今まさに公立学校改革に取り組んでいる。

スナイダー州知事

学校教育の改善がデトロイト復活の鍵となることは明らかである。なぜなら、学校教育は、生活の質 (quality of life) に関わる問題だからである。我々州政府は、デトロイトの 15 の学校を EAA の管理下に置いた。これらの学校は、これまで一貫して州内で最も学力の低い学校であり、大学への進学率がゼロの学校である。EAA は、これらの学校に

¹ <http://www.michigan.gov/eaa>

² http://www.michigan.gov/snyder/0,4668,7-277-57738_57679_57726-261612--,00.html

最新のテクノロジーを導入するとともに、1日の勉強時間と1年間の通学日数を通常の学校よりも長くすることにより、学力改善の成果を出しつつある。一夜にして劇的に改善というわけには行かないが、数年間で確実に改善するはずである。

一方で、既にデトロイトには、素晴らしい公立学校もある。例えば、私が訪問したある学校では、廊下に伝統的なメイン・ストリートのような絵が描かれており、校長先生にその理由を尋ねたところ、答えは「子供たちに小規模商店経営のトレーニングをしているから」ということであった。そこで、何歳から始めるのかと尋ねたところ、答えは「幼稚園から」であった。このように、デトロイトには、上手くいっている公立学校もある。

オンライン聴衆 (Q7)

デトロイト市の債権者たちに、デトロイトの大義のために大きな損失を受け入れるように説得するもっと良い方法はなかったのか。デトロイト市のバスツアーでもすれば良かったのではないか。

オア緊急事態管理官

バスツアーは、リクエストがあれば、いつでもやる。私自身がバスを運転して、案内しよう。冗談はさておき、バスツアーは必要ない。昨年6月14日に説明・公表した債権者への提案書(Proposal for Creditors)の中で、デトロイト市の財政状況等を明らかにしているからである。

正直なところ、私には、何か別な方法があったとは思えない。多くの債権者は、高い債券引受能力を持っており、市と長期にわたる関わり合いを持っており、市の財政状況をよく知っていたのである。しかし、彼らと交渉して、損失を受け入れるように説得することは極めて困難であった。

今後、数週間で市の債務調整計画案(Plan of Adjustment)に多くの賛同を取り付け、秋になる前に債務調整計画の承認を得たいと考えている。もちろん、すべての債権者の合意が得られる計画を作ることができればよいが、デトロイト市には、既にそのような合意形成に長い時間をかける余裕はない。よって、すべての債権者に、この破産手続きに真剣に参加してもらう必要がある。

聴衆 (Q8)

デトロイト市の人道的な債務調整計画案、すなわち地方債保有者は1ドルに対して数セントしか返済されないが、年金受給者は70%以上返済され、市の資産は売却しないとい

う案に対し、地方債市場はどのように反応すると思うか。将来、債権者から何らかのペナルティを受けるのではないか。

オア緊急事態管理官

そのような指摘はよく聞くが、私が 33 年間、弁護士として民事再生に携わってきた経験から言えば、一旦リストラが終わってしまえば、金融機関は、常にその企業を安全な投資先とみなすというのが現実である。

デトロイト市は、今でも金融機関から良い条件で資金調達を行おうとしているが、市の信用が上がれば、ますます良い条件で資金調達ができるであろう。

将来のペナルティという心配は理解するが、連邦破産法第 9 章の手続きの下で最も重要なことは、住民に対する行政サービスの継続である。ニューヨーク市は、1970 年代の財政危機の際に、セントラルパークを売却していない。同じように、デトロイト市も、市の資産を売却する必要はない。

より率直に言えば、市の不安定な財政状況は、投資家たちに長い間知られてきた事実である。

モデレーター (Q9)

州政府は、デトロイト市の再生のために、どの程度関与すべきだと考えているか。また、州と市の今後の関係について、どう考えているのか。

スナイダー州知事

デトロイト市を運営するのは、州ではない。これが出発点である。問題は、デトロイト市民という市と州の共通の顧客が、市から適切な行政サービスを受けられるようにするために、州がどの程度のサポートをすべきか、ということである。緊急事態管理官の任命も、破産申請も、その目的は、デトロイト市民への行政サービスの提供である。

我々は、破産手続きが効果的な結果をもたらし、ダガン市長の強力なリーダーシップの下で、市が前に進んでいくことを期待している。そして、州は一步下がって、パートナーとしての役割を果たせばよい。結局のところ、市民にとっては、適切な行政サービスが提供されさえすれば、誰が提供するかは問題ではないからである。

私の役割は、連邦、州、市が、デトロイト市民のために、できる限り連携して取り組むようにすることである。我々州政府は、デトロイト市に対して、いくつかの補足的なプログラムを実施している。その一例が「Pathways to Potential」というプログラムである。もしあなたがケースワーカーであれば、市民をあなたのオフィスに相談に来させるのが、一般的なやり方である。しかし、これは優れた顧客サービスとは言えない。そこで我々が

行っていることは、地域の 60 の公立小学校の中にサクセス・コーチ (success coaches) と呼ばれるケースワーカーを配置し、彼らが顧客である住民のところに出向いて相談を行うというプログラムである。ケースワーカーが受け身で問題の発生を待つのか、自ら出向いて積極的に問題を発見するかは、大きな違いを生む。このようなプログラムが、州が市のパートナーとして行おうとしていることである。州が市を乗っ取るつもりは全くない。州が市のパートナーとして活動することで、州と市のどちらが賞賛されるかは問題ではない。

聴衆 (Q10)

デトロイト市の労働組合に関連する課題について聞きたい。市の退職公務員の医療保険のコストは大きな財政負担となっているが、どのように解決していく考えか。

スナイダー州知事

私は、これは労働組合の問題ではなく、公務員を適切に処遇するという問題であると考えている。多くの州、市町村が同様の問題を抱えており、医療保険などのレガシーコストは、もはや財政的に許容できるレベルを超えている。多くのケースでは、これらの債務に対して、適切な積立てがなされていない。これは、強調すべき問題である。

私は、ミシガン州において、州の退職者関連債務の問題に取り組んでいる。ミシガン州では、2つの退職者関連制度を運営しており、合計約 450 億ドル (約 4.5 兆円) の債務を負っている。我々は、将来の退職者関連債務を減少させる改革を行った。さらに、債務支払計画を実行に移すことにより、退職者関連債務を約 300 億ドル (約 3 兆円) まで減少させる予定である。

この問題は、公務員と率直に対話した上で、退職後のベネフィットはそれほど良くなる代わりに、今から積立てを行うかどうかという難しい選択を迫るものである。しかし、もしそれに同意すれば、退職後の小切手をあてにできるかどうかを心配する必要はなくなるのである。我々は、州レベルでは、このような改革に取り組むことができたことを誇りに思うが、残念ながらデトロイト市は、破産申請の前に改革を行うことができなかった。そして今、アメリカ中の多くの州、市町村が同じ問題に直面しているのである。

オア緊急事態管理官

デトロイト市の無担保債権の最大の構成要素が、約 57 億ドル (約 5,700 億円) の退職公務員の医療保険債務であり、これを何とかしなければならない。

市には、約 9,300 人の現役公務員と約 22,000 人の退職公務員がいる。このうち、現役の公務員に対しては、引き続き医療保険を提供し、これまでがプラチナプランだとすれば、今後はゴールドプランになるというだけで、大きなカットは行わない。退職者については、メディケイド (Medicaid) やメディケア (Medicare) などの受給資格がある人には、何らかの給付金を提供し、それらの受給資格のない人には、代替的な医療保険を提供することにしている。

これらの医療保険のコストは、市が適切な行政サービスを提供することを妨げるレベルに達しており、もはや持続不可能なレベルにあることから、破産手続を通じて、給付水準の抑制等、何らかの調整を行う予定である。

オンライン聴衆 (Q11)

デトロイト市以外のミシガン州民の税金を使わずして、デトロイト市を自立させる方法について、知事はどう考えているのか。

スナイダー州知事

ミシガン州では、州のパートナーである市町村との関係について、様々な改革を行ってきた。例えば、州からの補助金等を受け取る市町村については、州内市町村のベストプラクティスに取り組むよう要請している。例えば、市町村財政の情報公開により透明性を高めることや、公務員の健康保険については、最低限 2 割の自己負担を導入して持続可能性を高めることである。また、市町村の事務の共同処理を進めるため、ミシガン州市町村サービス機構 (Michigan Municipal Services Authority³) を設立した (訳者注: 同機構の理事長は、州知事により任命される⁴)。この機構に加入すれば、市町村はバックオフィスを持つ必要がなくなり、機構において、集中的かつ効率的に事務処理が行われるようになる。これにより、市町村は財源を節約し、より良い住民サービスを提供できるようになる。州政府としては、このような取組みを続けていく考えである。

聴衆 (Q12)

ゴミ処理の民間委託においては、既存の労働者と新規参入者の競争入札が行われたが、同様の手法を他のサービスの民間委託にも導入する予定はあるのか。

オア緊急事態管理官

³ <http://www.michiganmsa.org/Pages/default.aspx>

⁴ http://www.michigan.gov/snyder/0,4668,7-277-57577_57657_59871-323646--,00.html

ゴミ処理や施設管理の民間委託においては、インディアナポリス・モデル (Indianapolis model) 又はシンシナティ・モデル (Cincinnati model) と呼ばれる、既存の労働者と民間事業者との競争入札を行った。結果的には、民間事業者が落札したが、今後もこのような取組みを継続するつもりである。

入札は、誰にでも平等にチャンスが与えられるように、公正・公平に行った。重要なことは、入札のプロセスだけではなく、デトロイト市がこれまで問題を抱えていた住民サービスの質を向上させることである。このような取組みを継続することにより、住民が必要としているサービスを提供できるようにしたい。

聴衆 (Q13)

デトロイト市に新しい産業を誘致するために、どのような取組みを行っているのか。

スナイダー州知事

我々は、ミシガン州内で様々な企業誘致の取組みを行っており、その一つが「Pure Michigan Business Connect」というプログラムである。これは、州内企業に、州内企業からの相互調達を呼びかけるものであり、州政府からの補助金等のインセンティブは何もないが、過去2年間で、約16億ドルもの売上げ増をもたらした。これは、約8千人の雇用創出に匹敵する経済効果である。

既に述べた移民制度改革の提案も、実現すれば大きな効果が期待できる。

また、デトロイトでは、溶接工などの技術系の職業訓練も進めている。州内には、この分野で1万人以上の雇用があり、デトロイトはこのプログラムを行うのに最適な場所である。これは、高い技術を有する専門家だけでなく、構造的な失業者の雇用にもつながる。我々は、構造的な失業者に対する職業訓練を実施しているが、これにより、1,200人も失業者の雇用確保に成功した。

デトロイトの長期的な成功の鍵は、いかに優秀な人材を確保できるかにあり、より良い交通網の整備、より良い学校の提供も含めて、我々は、そのような環境整備に取り組んでいる。デトロイトは、米国内のみならず、世界的に見ても、有数の可能性を秘めた都市として浮上しつつある。

オンライン聴衆 (Q14)

デトロイト市にアイスホッケー場を建設することは、市の経済発展につながるのか。また、州民の税金の賢い使い方と言えるのか。

スナイダー州知事

私は元会計士であり、一般的には、この手のプロジェクトには懐疑的であるが、このアイスホッケー場は、そのロケーションゆえに、素晴らしいプロジェクトである。

デトロイトは非常に大きな都市であり、ダウンタウンとミッドタウンの間にギャップがあり、そこはあまり雰囲気の良い地域である。そして、今回のアイスホッケー場は、まさにそのエリアに建設され、ライト・レール・プロジェクト (M-1 Light Rail Project) とともに、ダウンタウンとミッドタウンをつなぐ役割を果たすことから、公共的な価値が高いプロジェクトであると考えている。

聴衆 (Q15)

知事は熱心にデトロイト再建に取り組んでいるが、共和党の知事にとって、デトロイトは全く票にならないはずである。よって、最善の戦略は、デトロイトの没落を放置しておくことであると思うが、どうか。

スナイダー州知事

ミシガン州内でも同じような質問を受けることがあるが、答えはシンプルである。私は、すべてのミシガン州民のために働いており、そのことに誇りを持っている。彼らが私に投票するかどうか、彼が共和党員であるか、民主党員であるかは関係ない。私の関心は、彼らがミシガン州民かどうかである。

このような質問は、我が国の政治文化がいかに崩壊しているかを示している。私にとって、この州知事の職がはじめての公選職であるが、私は、2009 年の予備選挙のキャンペーンをデトロイトから始めた。そんなことをしても意味がないという人々もいたが、私が敢えてそうした理由は、私が知事になれば、そのような古いバリアを打破するというメッセージを送りたかったからである。

私は、すべての州民のために働く。そして、デトロイトを再び偉大な都市とするために、身を粉にして働くつもりである。

(上席調査役 犬丸 淳)